



「東京六戸会」 たより

秋の親睦会

“はとバス同乗記”と青森人の祭典

129

好天に恵まれた去る10月25日、東京六戸会のバスツアーに22名の方がお集りになりました。この催しは、最初は東京スカイツリーを含めたコースでしたが、このコースは人気いまだ衰えず、3カ月待ちとの事で急拠変更いたしました。参加を取り止めた方、また変更にもかかわらず参加された方々にも、心からお詫び申しあげます。

さて、ツアーではバスで混雑する東京駅南口を出発して皇居外苑へ。二重橋から皇居前広場の手入れの行き届いた芝生と緑の松は、人々のやすらぎの場となっております。お濠端を走る皇居ランナーと緑の深い皇居を左に見て、ほぼ一周して国会議事堂に着きました。かなりの階段を上って参議院議事堂の傍聴席へ。“修学旅行以来かな”という人も多く、記憶をたどりながら説明を受けました。議事堂の中央となる所に天皇と皇后のお休み所があり、どちらも贅を尽くした豪華なものでした。大正元年から昭和11年に完成とあり、国産最高の建材と技術が集められ、彫刻や壁画などには日本の風土や習慣などが配慮されているとの事でした。

国会を出ると早やお昼、バスは東京フォーラムへ移動し、昼食です。ここはもとの都庁跡で鷹狩り姿の太田道灌像が元のままにありました。お昼を戴いてバスは日の出棧橋へ。ここには船体を朱に染めて唐破風の屋根に葵のご紋を付けたマストをたなびかせた大きな



ご座船が待ちました。レインボーブリッジを下から覗き、海からのベイエリアの眺めも中々のものです。なぜか船内に花魁姿の娘さんがサービスをしており、誰かが“どうして

花魁独特の高い下駄を履かないの”と尋ねたら、船では危ないからと可愛い下駄が愛嬌でした。

バスはこの後東京タワーに向いますが、ここで六戸町から参加された田中孝雄さんを含む私ら4人が誘い合せ、はとバスを降りてJR中央線中野駅北口広場で行われていた“青森人の祭典”へ向かいました。中野駅改札をでますと早速ねぶた囃子が響き、跳人が舞っておりました。大勢の人混みの中から六戸町の売店を見つけて、スタッフの方々とお会いしました。田中さんのご存知の方ばかりなので皆さままでひとしきりお話が弾み、シャモロックのダシの効いたひつつみ汁を美味しく戴きました。山の恵みに海の幸、青森の特産物で“故郷のかまりこ”いっぱいのお会場でしたが、陽も傾いてきたのでそれぞれ帰途につきました。

さて東京六戸会では、これからも楽しい集いが出来たらと考えております。皆さまのご意見やアイデアをお願いすると同時に、ご家族や友人共々のご参加をお待ちしております。ありがとうございました。

(六戸中30年度卒 吉田竹雄)